

応援してくれる人へ奏でる

今、ボートレースが熱い。宮島も熱い。広島支部のレーサーを中心に深掘りするインタビュー企画「宮島でブチ上げ」の第4回目は、三馬崇史（26＝広島）をピックアップ。ボートレーサーを目指すきっかけ、22年5月にデビューしてから現在までを振り返り、今後の目標と、11月1日から開幕する宮島「ルーキーシリーズ第21戦 第12回スカパーJ・JLC杯」への意気込みと抱負を語った。

三馬崇史 Vサンバ

20歳の観戦で「衝撃」 若干20歳の大学生の頃に観戦したボートレースが彼の運命を変えた。「お父さんとボートレース宮島に行った時に、エンジン音とレースに衝撃を受けました」。大学2年時に養成所の試験を受けると見事に一発合格。「その時はまだ在学中だったので、休学して養成所に入りました。養成所を卒業してからは、これ一本で生きていくと決めたので、大学には退学届を出しました」。デビューは22年5月、地元宮島の一般戦。節間10走は全て6着だったが、新たな人生の船出とともに、この職業に人生を捧げる決心がついた。

デビューから4カ月後の8月には高校時代からの同級生と結婚した。「ボートレーサーとして、やっていく決心がついたのでプロポーズしました。今は子供が2人いて、3歳と1歳の女の子がいます。めっちゃ可愛いけど、僕が甘やかし過ぎるので、奥さんに毎回怒られます。でも、今は本当に家族の存在が大きいですね。そのために頑張ろうと思える」。守るべきものができてから成績は右肩上がりだ。

今年6月には蒲郡でデビュー初優出を果たした。「僕の中では優出の壁が結構厚くて、初めて優出できた時はめっちゃうれしかったです。優勝戦は6枠だったけど、ようやく優勝を目指せる場所に立てたんだなって思った」。優勝戦の結果は5コースに入って5着。初優出→初優勝はならなかったものの、また1歩、ボートレーサーとして成長した。

8月の「岩田杯」

地元では初の優出も
転覆失格…

「ファンや家族には
申し訳なかった
優勝して恩返ししたい」



「めちゃくちゃ気合」 ここまでを振り返ると、順調な選手人生を歩んでいるように思える。しかし、本人は自分の力のなさを痛感する。「ここまでの成長過程はまだまだです。僕自身が同期のうまい人と比べてセンスがないと思っている。養成所の時から中山翔太、藤原仙二、塚越海斗は本当にうまかったし、僕はセンスでは勝てないと思うので、一倍、努力をして、そこを目指していけたらと思います。今年は3人ともヤングダービーに出場しているので、まずは来年のヤングダービーに出場するのを目標にしています」。

そんな三馬の師匠は下寺秀和。公私ともに良き理解者だが、水面に出れば良きライバルとも語る。「目標とするのは師匠の下寺さんですが、師匠を越えたいと思っている。やっぱり選手をやっているからにはSGや、GPに出て活躍したい」と目を輝かせる。

11月1日からは地元の宮島で「ルーキーシリーズ第21戦」が開幕する。「地元のルーキー戦だし、めちゃくちゃ気合が入っている。身近で応援してくれる人も多いし、前回の分もあるので頑張りたい」。8月の「岩田杯」では通算2度目、地元では初の優出を決めたが、優勝戦は4コースから外を握ってバランスを崩し転覆失格となった。「優勝するためには、上をいくしかなかったの、そこは後悔ないです。ただ、応援してくれていたファンや家族には申し訳なかったと思うので、今回は優勝して恩返しをしたいです」。これまで培ってきた経験と、応援してくれている人々の思いを力に変えて、全力で優勝を狙っていく。



◆三馬崇史（さんば・たかふみ）2000年（平成12）8月27日、広島県生まれ。130期生として、22年5月宮島でデビュー。師匠は下寺秀和。今年6月の蒲郡一般戦でデビュー初優出。8月には地元で2度目の、10月徳山で3度目の優出を果たした。同期は中山翔太、藤原仙二、塚越海斗、西丸侑太郎がいる。169㌢・57㌔。血液型A。趣味は釣り。

5243
Sanba

ゴイス